

ベゼクリク千仏洞
瓜生津教授と

題材法話

○正信偈を味わう③

引き続き、「普放無量無
辺光」からの一切群生蒙光
す。までの6句を味わいま

ら「無碍光」「無量光」「無
光」「無碍光」「清浄光」「無
喜光」「智恵光」「不斷

光」「難思光」「無称光」
「超日月光」の十二の光で

あらわされていることをお
話しました。

初めの四つの光はすでに
味わいました。「無量光」

とは「かぎりのないはたら
き」。「無辺光」とは「区

別・差別のないはたらき」
「無碍光」とは「一切の条

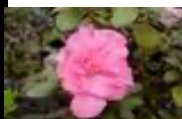
件を付けることのないはた
らき」。「その他様と比較す

ことは「他の仏様と比較す
ることの出来ない、この上な

く優れたはたらき」という
阿弥様の働きであ

りました。
○「任せよ」との

声



この四つの光の譬えは、
一言で云えば、阿弥様の
働きの「様」「様子」を表

しています。
阿弥様の「様」を表す

ことによつて、私達に「安
心して任せなさい」と呼び

かけて下さるのです。
私達の世界でも、名医と

言われるお医者さまは、ま
ず患者さんを安心させるそ

うです。
つまり、「あなたの悪い

ところはこの私が一番よく
知つています。あなたは病

氣を治すために私は最大限
の努力をします。どうか安

心して任せて下さい。」と
いつたような気持ちを患者

に伝えるのです。
そうすると患者も安心し

て、治療が上手くいくそ
うです。

実は阿弥陀さまも私達に
「無量光」「無辺光」「無

碍光」「無碍光」と、その
「様」を示すことによつて

「すべて安心して任せよ」
と仰つていらっしゃるです。

○光の「内容」
そこでつぎに「光

炎王」「清浄光」



「歡喜光」「智恵光」とい
う四つの光のはたらきにつ

いてお話しします。
最初の四つが阿弥陀さま

の「様」を表すなら、こ
の四つの光は「阿弥陀さま

のはたらき」と「内容」を
表していると言えます。

阿弥陀さまは、ひたすら
わたしたちの内に光をそそ

いで、その光の内に私たち
をおさめようとしています。

では何故そうしようとな
されるのでしょうか？

それは、私たち人の世が
闇だからです。私達は、

「愚痴」「怒り」「貪り」
という煩惱に翻弄され、正

しくものを見る眼を失つて
いる存在だからです。

○「光炎王」
煩惱を

阿弥陀様は、私達の闇の
世界を打ち破る王様です。

世界を照らす光だけではな
く、煩惱を焼き

尽くす炎の王様
なのです。

炎に焼き尽く
されたモノは、

も残さない純白



な灰となります。
私達は本来ならば罪業

深く、煩惱にまみれた生
き方しかしていません。

落ちてもなんら不思議で
ない存在なのです。

けれども、光炎王と呼
ばれる阿弥陀様に出会え

たことによつて、全ての
罪業や煩惱が焼き尽くさ

れ、お浄土に生まれさせ
て頂くことが約束される

のです。
正信偈で拝読する和讃

に、
「光炎王仏となづけたり

三塗の黒闇ひらくなり」
とあります。

三塗の黒闇とは闇の迷
いの世界、つまり私たち

の世界と云うことで、そ
の迷いの世界をひらくの

が阿弥陀様の働
きであるという

ことです。

以下次号

9月例会

住職法話より

